

事業実績書

- 1 事業名 水害は「逃げるが勝ち！」
- 2 実施期間 令和3年4月21日 ～ 令和4年3月31日
- 3 事業内容

- 1 事業の目的・概要

【目的】

西日本豪雨災害を経験した川辺地区を中心とした真備町の住民が防災減災について考える場を作り、つながりや助け合いの関係性を築きながら防災力向上を目指す。

また、事業を進めていく中で学んだことやノウハウを県内外の方にも伝え、防災に強いまちづくりを目指す。

【概要】

(1) 防災・減災をすすめる事業

ア 防災カフェ（年間6回実施）

防災のことを自分たちのこととして考えられる内容。防災の知識を身に付け、楽しく集うことでお互いが顔の見える関係づくりとなる。

住民同士の繋がりの強化は災害に強い町を目指す活動となる。

- ・ コロナ禍の中で、実際に集まって開催できないときには、ZOOMやYouTube配信などのオンラインを活用しながら実施した。

(YouTube 動画)

「車中泊について」

「地震について学ぶ①災害看護の山中弓子さんの経験（限定公開）」

「地震について学ぶ②保育士・母として岩本淳子さんの経験（限定公開）」

「あの日あの時の西日本豪雨災害被災地の現場から①②③」

- ・ 「防災ママカフェ 備えについて」「LINEを使ってみよう」2回

イ 川辺みらいミーティングの開催（年2回）

災害からの復興や地区防災計画のモデル事業となるよう、防災に関心の強い人達を中心の実行委員会として、誰でも参加できるように企画運営をする。

昨年度配布した黄色いタスキを使った安否確認訓練を川辺みらいミーティングで実施し、共助について川辺地区全体の意識向上を目指す。

- ・ 第7回川辺みらいミーティング「黄色いタスキによる安否確認訓練」
関係諸団体と協力して実施。令和2年度に配布した黄色いタスキを各家庭で玄関先に掲げ、それを確認、集計、オンライン報告会を開催した。（詳細は活動報告）
- ・ 第8回川辺みらいミーティング「学ぼう！川辺の防災」会場とオンラインの併用開催
国交省・高梁川小田川緊急治水対策事務所所長より「河川工事の現状とこれからについて」、あるくの槇原より「防災おやこ手帳について」、そして、基調講演として香川大学 准教授 磯打千雅子先生より「これから起きうる災害に備える～川辺の特徴を踏まえた防災とは～」と題してご登壇いただき学びを深めた。参加者アンケートでは、満足度を5段階評価してもらい86.6%が4以上、13.3%が3だった。

ウ キッズ防災教育（小学校と連携）（年3回）

子どもたちに対して「楽しさ」を盛り込んだ防災教育を行い、併せて子どもたちが災害から命を守るすべを身につけることを目指す。

- ・ 川辺小学校3年生・5年生への講話と防災啓発
転勤などで被災当時を知らない教員が増えてくる中で、被災した子どもたち

への防災教育の在り方について手探りでしている状況にある。そこで、地域で防災活動をしている私たちが話をすることで、子どもたちも興味をもって話を聞き、学びにつなげるきっかけとなった。

- ・ ゲームで楽しく防災！クロスロードゲーム
小学生やその親を対象に行った。正しく恐れて正しく備えるために、日本の災害状況についての話を聞いたり、「もし、登下校中に地震が起きたら？」「避難中、自分の食料を他の人に分けてあげる？」など具体的な状況で自分はどうするかなどをクイズ形式で問い、考えたりして、楽しく分かりやすい防災教室となった。

(2) 他地区への防災減災に向けての啓発活動

ア 講演活動の展開 (32回) 別紙「啓発活動報告」参照

- ・ 岡山県男女共同参画・国交省中国地方流域治水・全国マスコミ論理協議会・岡山県聴覚障害者福祉協会女性部
- ・ 京都文教大学・吉備国際大学・岡山県立大学・広島経済大学(学生ボランティア)・中央大学(学生ボランティア)
- ・ 和歌山県あやの丘小学校・奈良市立朱雀小学校・川辺小学校・連島中学校2年生・倉敷市立西中学校2年生・玉島東中学校2年生・倉敷市PTA連合会西ブロック
- ・ 大元公民館・神石高原・日野市・興除公民館・医療生協・大阪市 他

イ 「防災おやこ手帳」の活用・第2弾の作成

第1弾は「逃げる」をテーマに、避難について分かりやすくまとめた。第2弾は、「備える」をテーマに、被災前に知っておきたかった備えや命だけではなく心も守るための避難ができるように内容をまとめた。

2022年2月末現在までの配布冊数 第1弾 約18300冊、第2弾 約5200冊

2 事業の流れ等

コロナ禍の中、必要に応じてオンラインを活用したり、少人数で集まって開催したりして、事業遂行のため、工夫しながら行った。

3 成果・効果

西本豪雨災害の経験を基にした防災の取組は、説得力があり、災害を想定するための想像力を促すことができる。よって、川辺地区のみならず、県内外の地域にとっても我が事と感じられ、防災に取り組むためのきっかけ作りになった。日々の生活の中で、無理なく防災の要素を取り入れた取組みについて工夫し提案することで、つながり作りや防災知識を深め、自助共助の大切さを感じ、災害に強い町づくりの一役となったと感じている。

「黄色いタスキ大作戦」では、地区全体で安否確認訓練を行ったことにより、地域の各種団体がいざという時にこのタスキを使ってどのように避難に結びつけるのかを含め、しっかりと活用して川辺の防災を進めていこうとしている。そのことが、啓発ポスターの作成につながったり、要配慮者の避難について考えるきっかけとなったりしている。

「防災カフェ」では、参加者の疑問や災害に対する不安を解消する内容をテーマとして取り扱っていった。被災経験からスマートフォンからの情報収集がとても重要と考えている人も多く、「LINEを使ってみよう」は熱心な参加者が集まっていた。また、他のテーマの時でリアル開催が難しい場合も、YouTube 配信を利用し、自宅に居ながら学ぶことができ好評だった。また、YouTube にしたことにより、参加者の地域を限定することなく、学びの場を提供できたことは大変よかった。

「キッズ防災」については、被災経験のある子どもたちへの防災教育の難しさを心配していたが、子どもなりに考え、自分の命を守ろうとする気持ちが見られた。親や家族を巻き込んだ、楽しい防災教育をこれからも提案していきたい。

「啓発活動・講演会」については、被災経験を基にした防災の取組事例を基本とした話については、需要が高まっていると感じている。多い時には月に5回ほどの講演依頼があることもある。頻発する災害に対して危機意識をもっていることと、経験者から学ぼうとする姿がみられる。しかし、必要性を感じているにもかかわらず、実際の行動（備え）につながっていない方も多く、行動に移すための後押しができればと思っている。

「防災おやこ手帳」に関しては、メディアに大きく取り上げられたり、手に取った方が広く配布してくださったりと広がりを見せている。コロナ禍の中、地域の防災研修もままならず、防災おやこ手帳を配布することで防災啓発をしたいと考えた方も多くみられた。「このような冊子を作ってくれてありがとう！」などと感謝の手紙も多数届き、私たち以上に、手に取った方々がこの手帳を大切に扱ってくれていることに感謝している。また、備えることをテーマにした第2弾の防災おやこ手帳に関しても、メディアや SNS の情報から申し込みがきている。被災経験を基とした災害から命と心を守るための事前防災のヒントとなるものができたと感じている。

4 今後の課題・展開等

2年間で基盤を作ってきた活動を継続、発展させて、より意識を高め、定着することができるように、防災研修会や防災イベントを企画開催していきたい。

蓄積したノウハウと協働団体とのつながりを活かし、黄色いタスキの導入支援や子ども向け防災教室の充実などを図っていきたい。

連携している団体が多くなってきたり、活動が注目され活動の幅が広がってきているため、調整や取組の進捗に時間がかかることもある。計画的に事業を進め、役割についても整理しながら進めたい。

5 県民局と協働した効果及び課題

県民局とは、必要に応じて、協働事業進捗のための打ち合わせを行った。また、県民局は次により、本取組に係る周知を図るほか、「防災おやこ手帳」について管内市町や各県民局への配布を行った。

プレス発表 黄色いタスキを活用した安否確認訓練、防災おやこ手帳の作成などについて、NHK、倉敷ケーブルテレビ等から取材を受けた。

4 参考事項・資料

- ① 第1弾防災おやこ手帳・第2弾防災おやこ手帳
- ② 令和3年度活動報告「防災減災に関わる事業」
- ③ 令和3年度啓発活動報告

令和 3 年度活動報告 (2021年度)

～防災減災に関わる事業～

川辺復興プロジェクトあるく

5/16 黄色いタスキによる安否確認訓練 第7回川辺みらいミーティング

出水期の前に、黄色いタスキを使った避難訓練と、防災を考える体験型防災研修「防災フェス」を予定していた。コロナ感染拡大によってイベントの開催はできないと判断し、延期とした。しかし、コロナ禍であっても災害は待ってくれず、起こる可能性があり、安否確認訓練「黄色いタスキ大作戦」として行い、オンラインを使って報告会を同時配信した。

黄色いタスキを使った安否確認訓練に向けて、町内会があるところには町内会会長を通じてタスキを配布した。町内会がない団地や集合住宅にも、関係する諸団体と連携し、協力を得てタスキを配布した。

「黄色いタスキ」を掲げることで、繋がりを覚えることができた。「無事です」と掲げてあれば、声掛けする時間の短縮となり、自分の避難も早くなるので安心。「黄色いタスキを掲げましょう!」とお互い声掛けができ、コミュニケーションが取れて良かった。「川辺全体で防災の活動をしている!という繋がりがみえる成果を感じられる取り組みであった」そして、これまでのみらいミーティングの取り組みが「地域を動かす」成果につながったと好評いただいた。

成果報告会YouTube配信
586回

《集計結果》
黄色いタスキの配布軒数 1348軒
玄関先に括り、参加した軒数 874軒
達成率 64.8%
町内会数53
報告町内会数49



黄色いタスキ大作戦 ～安否確認訓練～

川辺地区にお住まいの皆様へ、
今年も5月16日(日)に「黄色いタスキ」を使った安否確認訓練を行います。
※当日、お出かけの際は、あらかじめ玄関先に括りつけてください。
※雨天の場合は、当日の開催状況は本町ホームページにてお知らせいたします。

開催日時
2021年5月16日(日) 13:00～16:00

～皆さんにお願いすること～
13:00 になったら、「黄色いタスキ」を自宅の玄関先に括りつける。
※当日、お出かけの際は、あらかじめ玄関先に括りつけてください。
※雨天の場合は、当日の開催状況は本町ホームページにてお知らせいたします。

～黄色いタスキを使った避難訓練～
地区役員さん、団地役員さん等ご自身の玄関先までお立ち寄りいただき、本町に報告いたします。

オンライン 配信！ 安否確認訓練の参加状況と成果報告
～内容～
・黄色いタスキの配布状況
・参加した地区の報告
・参加した団地の報告
・参加した団地の報告
・参加した団地の報告

問い合わせ先 事務局 川辺みらいプロジェクト 090-5752-0111
タスキが置いていない方もご連絡ください

黄色いタスキ大作戦

川辺地区の「黄色いタスキ」ルール

1. 「無事です」のタスキが、「避難した」のサイン。
2. 平時は玄関などの目につく場所や非常時持ち出しバッグに括りつけて保管。
3. 結びやすく、目立つ色。ご近所さんはもちろん、町内会さんや自主防災リーダーさんなどが安否確認をする際にも役立つ!

※水害時一階まで避難し、玄関付近の目立つところに括りつける。タスキが掛かれば、玄関付近の目立つところに括りつける。

※大雨時は、タスキが掛かれば、玄関付近の目立つところに括りつける。

緊急時タスキが玄関先になくお宅に声掛けをお願いします。

川辺地区の住民みんなで取り組もう!
水害時や避難時には、この「黄色いタスキ」を使った避難訓練を必ずしてください。



オンラインで
報告会



掲げた数を報告
集計



10/31「学ぼう！川辺の防災」 第8回川辺みらいミーティング

西日本豪雨災害後、自分たちのできることをできる人たちが集まり考え「みらいミーティング」として開催してきた。コロナ感染対策として、会場とオンライン併用での開催となった。

今回は、改めて自分たちの地域を知り防災を考える機会として、国交省・高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所 濱田輝彦所長より「川辺地区の河川工事の現状とこれから」として、治水対策事業の現状を聞いた。

第2部は「防災おやこ手帳」を紹介した。子どもたちを持つ親世代には幼稚園小学校を通じお渡ししていたが、地域の皆さんに行き渡っていきなく、掲載内容のポイントを川辺復興プロジェクトあるく代表、榎原聡美より話をした。

第3部は基調講演として「これから起きうる災害に備える～川辺の特徴を踏まえた防災とは～」と題し、香川大学准教授 磯打千雅子氏よりおはなしを聞いた。西日本豪雨災害を地形から見た検証と、地震の備えとして想定震度の到達時間30秒を命を守る行動をとり備える機会となる内容を基にした内容で、今までの活動を踏まえて今後防災活動に対する取り組みや考えを重ね合うことを紙にしていく地区防災計画につながっていき良いまちづくりになるとのお話であった。開催の内容はYouTub限定公開で配信された。

参加人数 40人・視聴回数135回

令和3年度岡山県備中県民局提案型協働事業

参加無料

2021年
10月31日 13:30-15:30
真備公民館川辺分館・集会室 会場定員 30名
オンライン併用で開催します。
※コロナ感染拡大によって川辺分館が使えない場合は、オンライン開催のみとします。

第1部 13:40～14:10
「川辺地区の河川工事の現状とこれから」
国交省/高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所

第2部 14:15～14:30
「西日本豪雨災害の体験を基に作成した防災おやこ手帳について」
昨年10月に発行し、すでに配布部数は1万冊を超えました。手帳に記載されているポイントをご紹介します。

第3部 基調講演 14:40～15:20
「これから起きうる災害に備える～川辺の特徴を踏まえた防災とは～」
講師：磯打千雅子氏(香川大学 准教授)

締め切り 10/29(金) 会場参加予約 お問い合わせ

事務局：川辺復興プロジェクトあるく
TEL: 080-5752-0111

黄色いタスキが自宅にない方もご連絡ください。

オンライン視聴 右のQRコードから申し込みください。後日、メールアドレスに申し込みフォーム URLをお送りします。 <https://forms.gle/RtAMu6T2ggu6r72A>

主催：川辺地区まちづくり推進協議会・川辺みらいミーティング実行委員会
協力：香川大学 防災・危機管理・防災・学生・社会連携推進部 防災推進センター 高梁川緊急治水対策センター
国土交通 省高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
後援：倉敷市

《参加者の声》

自分の住んでいる場所を知ることで、起こる災害から命を守る行動につなげることができるのだと思いました。

マイタイムラインの事もう一度考えようと思います。

自分より以上に磯打先生が川辺の事を知っていて、自分ももっと自分の地域の事について知っておく必要があると感じました。

水害を経験しても、避難スイッチを入れるタイミングに迷い、難しい。

地震の場合は突然の事だけに身を守る行動をとれるか心配。

地震に対する備えの必要性について再確認しようと思います。

【参加者アンケート】30人回答

Q1性別 男性53.3% 女性46.7%

Q2年齢 70～80代36.7% 30～40代16.7% 50～60代46.7%

Q3住所 川辺地区73.3% 真備→岡山市→倉敷市内→その他

Q4満足度 5 (14人) 4 (12人) 3 (4人)

Q5講演内容を聞いて参考になったこと

- ・南海トラフに向けての対策、準備をみんなで考えるきっかけをすすめたい
- ・大規模な治水滝策に感謝しながら住民のソフトの面で繋がりを密にしていきたい。地震到達時間30秒を動ける訓練が必要なのか？

Q6感想、防災について

- ・「川辺の特徴を踏まえたぼうさいとは！」のタイトルを見て参加した。
- ・防災リーダーの育成（町内会レベルで）
- ・黄色いタスキの訓練を毎年確実にするようにしたい

◎参加した方は防災に前向きに取り組みたいという姿勢を感じた。

黄色いタスキ啓発ポスター制作

目的

- ・「黄色いタスキ」を使った安否確認訓練を周知することができる
- ・町内会の無い世帯に「黄色いタスキ」の所在を知らせることができる
- ・ポスターにすることで「黄色いタスキ」を意識することができる

内容

- ・川辺みらいミーティング、川辺地区小地域ケア会議で協力し、黄色いタスキを使った安否確認訓練を年1回する。
- ・コロナ禍で、地域の中でもコミュニケーションが希薄になる中、ポスターを作り多くの人が見ることができるゴミステーションに「黄色いタスキ」の啓発ポスターを貼る。
- ・小地域ケア会議において、ポスターに掲載する言葉を出し合い、写真は安否確認訓練をした時の物を選び、防災おやこ手帳をデザインした方に依頼しB4サイズで3パターン製作した。
- ・まん延防止措置が解除されたのちに、話し合いを持ち、手分けをしてゴミステーションの振り分けをして川辺地区全体に知らせられるようにする。

今後

- ・川辺みらいミーティングで「黄色いタスキ大作戦」安否確認訓練をどのように進めていくか検討をする。
- ・川辺地区まちづくり推進協議会に加入している町内会の代表との情報共有のLINE公式での、緊急情報伝達訓練をどのように組み合わせていくか検討する。
- ・川辺地区小地域ケア会議では、町内会がない世帯や集合住宅などに情報を伝えるきっかけとしてポスターで啓発する。
そして、要配慮者への声掛けをどのように進めていけるか話し合いを進めていく。
- ・掲載されていない団体にも声をかけ、町内会が無くても、世代間で共有して進めていくことで周知する人が増え防災意識を共有することができると思う。

B4サイズ 3パターン 各100枚 A3ラミネート処理をして約60か所のゴミステーションに掲示 劣化したものは適宜交換する



【1】 防災・減災をすすめる事業

防災を身近に感じ、楽しく会話をしたり、お茶を飲んだりしながら防災を我が事として考える場として「防災カフェ」を毎月開催することを予定していたがコロナ感染対策のため開催できない月もあった。よって、動画を制作して配信したり、少人数で開催できる機会を大切に顔顔を合わせたりして行った。

① 防災カフェ（毎月1回程度）

開催日	内 容	参加人数	スタッフ 参加人数
4/13	「LINEを使ってみよう」 講師：あるくスタッフ榎原	4人	4人
5/18 収録	車中泊について動画制作 ・YouTube配信 講師：香川大学准教授 磯打千雅子	視聴回数 約250回	1人
7/6	防災ママカフェ 水害の被災体験を振り返り、備えの意見交換会	2人	3人
7/27	「LIENを使ってみよう」 講師：あるくスタッフ榎原	8人	2人
9/17	「地震について学ぶ」 講師： NPO災害看護支援 山中弓子 講師： なのはな保育園取締役 はなえみ保育園長 岩本 淳子（オンラインにて）	緊急事態宣言により 延期	延期
10/20 収録	「地震について学ぶ」 講師：NPO災害看護支援 山中弓子（あるく事務所にて） 講師：なのはな保育園取締役 はなえみ保育園長 岩本 淳子（オンラインにて）	YouTube 山中さん20 岩本さん16	5
11/18	「LIENを使ってみよう」 講師：あるくスタッフ榎原	緊急事態宣言により 延期	2人
2/17	HUG「避難所運営ゲーム」 講師：村上	緊急事態宣言により 延期	
3/9	HUG「避難所運営ゲーム」 講師：村上		
3/9 収録	コロナ禍により村上氏講師の下でのHUG下開催できないため、村上氏とテーマを3つに絞り対談形式の動画を制作しYouTube配信する ①西日本豪雨災害 現地にいた人の目に映ったものとは ②災害大国ニッポンを生き抜くためには ③あなたのやる気スイッチを押します .		

防災カフェ 「防災ママカフェ 備蓄品について」 7月6日

小さい子どもを持つママと、防災グッズや備えについておしゃべりをした。
水害を経験した時の子どもたちの様子や、被災後の子どもの不安を抱えママたちは向き合ってきたようだった。

【意見】

『梅雨になると子どもが不安になりがちで、雨の夜は一人で寝ることができない子もいる』

『「逃げる＝怖い」とならないように、少しでも楽しく、不安を軽くする工夫が大切』

◎『平時から「キャンプに行くよ」と「アウトドア避難」になるように
楽しいこと＝避難にしたい』

○『被災後のプライベートの空間確保が重要』

『「子どもに避難グッズ」は子どもが日頃から大切にしている「宝箱」のようなものを一か所に決めておいておくといい』

◆『意外に家庭や地域で防災の話できていないのかも』

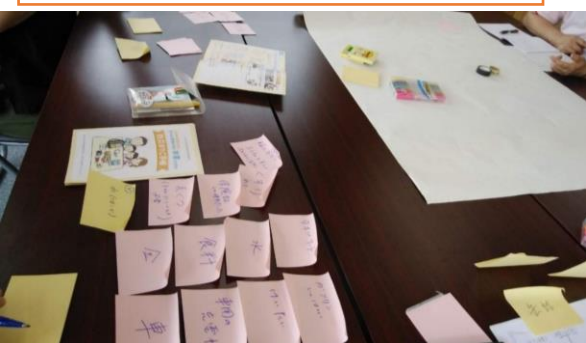
◆「地震の備えについて知りたい」

⇒【計画】「地震を経験し、災害看護師の山中さん、
熊本地震で被災経験を持つ保育士岩本さん」からお話を聞く



何があったら便利？
どんなものを準備してる？

市販の避難グッズ「色々あるけど自分にとって必要なものが入ってるものを選ぶといいよ」



防災カフェ「地震の備えについて学ぶ」

(目的) 地震の備えについて学び日々の生活に取り入れられるようにする。

(内容) 水害での被災体験をもとに、日常の生活の中で備えはしているが、近い将来予測されている南海トラフ地震について、どのように備えをすべきか地震被災者からヒントを得る。

災害看護師として活動を続けてこられ、阪神淡路大震災を経験されている山中さんに、専門職としての視点からお話を聞く。

熊本地震を体験され、保育士として多くのお子さんを見て来られている岩本さんからオンラインでお話をいただき、子どもを持つ親が何をどのように備えておくべきか話を伺う。

防災カフェ

地震の備えについて 学ぶ



身近になってきているという災害！地震。備えは出来ていますか？
一人では解決できない課題や備えについて、阪神淡路大震災や熊本地震を経験された方のお話を聞いて、一緒に考えてみましょう。

日時 9月17日(金)
10時～12時

場所 真備支所101会議室

対象 倉敷市の方ならどなたでもOKです

参加費 200円

申し込み方法
コロナ感染対策により人数の把握のため下記の2次元コードまたは電話にてお申し込みください。

お知らせ



手洗いの頻度



距離を空ける



講師: NPO災害看護支援 山中 弓子先生

阪神淡路大震災を経験し、NICUでの防災班として活動、東日本大震災、熊本地震後の災害支援を経て、西日本豪雨後の災害支援にも携わる。

【資格】 看護師、防災士

【主な活動】
親子支援、災害看護支援
訪問看護、訪問介護



講師: 岩本 淳子先生
(保育士)
なのはな保育園取締役
なのはな保育園園長

熊本県益野町で熊本地震を経験され保育士として、子育て世帯のよき理解者として、復興支援に、保育に尽力されています。今回は会場と熊本をオンラインにてつないで、子どもたちをはじめ、家族や大切な人を守るためのヒントとなるお話を伺いたいと思います。

主催: 川辺復興プロジェクトあるく
後援: 倉敷市
令和3年度岡山県養育中農政局提案型協働事業

○まず、何から準備する？
○何が大事な？
○地震の備えは？
○急に来る地震にどう対処する？
○心構えは？

《お問い合わせ・申し込み先》
倉敷市真備町川辺123-1
メルペーユ103号
川辺復興プロジェクトあるく

TEL 080-5752-0111
(午前9時～17時)

メールアドレス
srku.2018.10.18@gmail.com



延期

オンラインで視聴できるように調整

収録日
10月20日

9月17日開催予定であったが、コロナ感染拡大による緊急事態宣言発令につき延期となった。「気軽に参加できるオンライン講演会として開催できるようにしてほしい」との声もあり収録する。

コロナで延期になっていたこの会、収録公開の形で開催することになった。今日は、災害看護支援の 山中弓子さんに阪神・淡路大震災の被災経験や今までの支援活動の中での経験など、お話ししていただいた。

山中さんのお話、ほんわかな雰囲気心地いいのですが、教えてくださる内容はとても具体的でわかりやすい！

震災の時の生々しいお話や地震の怖さを聞かせていただき、備えの大切さを改めて感じた。今回の収録講演は、後日、お申し込みのあった方に公開。災害から命を守るための備えが重要となる。

経験に勝る教訓はない！阪神淡路大震災や熊本地震で被災したおふたりから、経験談をお聞きしYouTubeの動画編集した。

多くの方に知っていただきたい内容なので、SNSで告知し申し込みをすると誰でもYouTubeで見たり聞いたりできるようにした。

申し込みは

→フォームに必要事項を書き込んで送信したら、自動でメールが届く。そのメールに、YouTubeのURLが掲載し、視聴できるようにしている。



令和3年度岡山県備中県民局提案型協働事業

防災カフェ

『地震の経験者に聞く～地震の備え～①』



講師：山中弓子先生
NPO災害看護支援
阪神淡路大震災を経験し、NICUでの防災半として活動、東日本大震災、熊本地震後の災害支援を経て、西日本豪雨後の災害支援にも携わる。

聞き手：川辺復興プロジェクトあるく

【～地震について被災経験者に聞いてみよう！～10/20収録】

水害で被災したからこそ分かったことがある。だからこそ、今、地震の経験者に話を聞きたい！ということで、熊本地震で被災された、岩本先生にお話を聞いた。

先生は、保育園を経営されていて、ご自分も妊娠中でありながら、「多めに持っているものを少し分けてあげる。一人では生きていけないのだから・・・」と、出来ることをされていたお話には心を打たれた。



令和3年度岡山県備中県民局提案型協働事業

防災カフェ

『熊本地震の経験者に聞く～地震の備え～②』



講師：岩本淳子先生
なのはな保育園取締役
はなえみ保育園園長

熊本県益野町で熊本地震を経験され保育士として、母として、子育て世代のよき理解者として復興支援と保育に尽力されています。子どもたちをはじめ、家族や大切な人を守るためのヒントとなるお話を伺いたいです。

聞き手：川辺復興プロジェクトあるく

防災カフェ「LINEを使ってみよう！」

(開催目的)

日常は、イベント情報の共有と、世代間を越えた繋がりを深める役割となっているLINE。災害時にLINEを使って情報を共有し使えるようにするために、基本の操作を繰り返し行い、習得できる。

(開催内容)

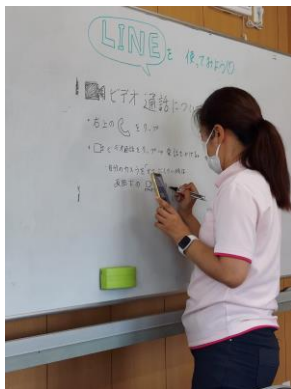
- 1, 絵文字やスタンプのダウンロード
- 2, ビデオ通話の仕方
- 3, 声のメッセージ (留守番電話のようなもの?)
- 4, 「LINEを使ってみよう」のグループを作って投稿し合う

(感想)

「可愛いスタンプ使えるようになって楽しい」
 「知らないアプリ、便利なアプリを取れてよかった」
 「このイベントに参加したことで、スマートフォンを触るのが増えた」
 「操作することを怖がらずに、スタンプを取り込んだり使うなどでできて楽しい！」
 「個人LINEとグループLINEの使い分けができるようになった」
 「グループLINEに投稿された内容を見ることで現状が共有、把握できる」
 「スタンプ利用は、気軽にコミュニケーションができるので楽しい」

(課題)

繰り返し復習することで習得を目指しているので、内容は大きく変えず開催する。
 機種によって操作が違うこともありそれぞれに対応する。



月	開催日	講師	参加人数	スタッフ	内容
4	13	1	4	4	友達追加、無料スタンプを入れてみよう
7	27	2	6	2	
11	18	1	2	2	
合計		3	12	8	



コロナ感染拡大によりイベント延期

地震が発生した場合、川辺小学校が避難所

として開設されます。
避難所運営のことみんなで
考えてみませんか？

開催日： 3月9日(水)

場所： 川辺分館

受付： 9:30～
時間： 10:00～12:00

対象： 避難所運営に
関心がある方

定員： 25名
参加費： 200円

HUG

避難所運営ゲーム図上訓練

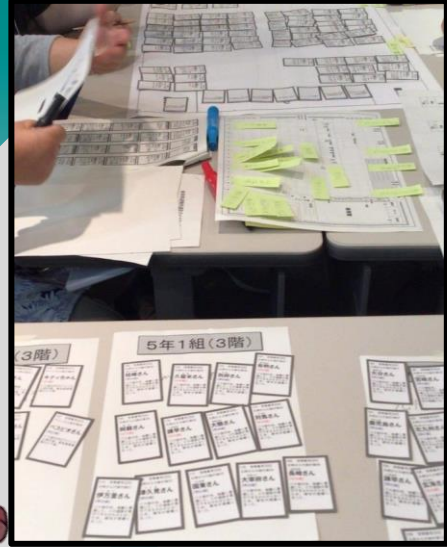
《講師》

一社epoおかやま笑顔
プロジェクト代表理
事
村上 浩司 氏

《講師紹介・主な活動》

- ・日本赤十字社防災教育事業
指導者
- ・日本防災士会岡山県支部
所属
- ・防災図上訓練
ファシリテーター
- ・自治体等自主防災組織
研究会事務局長
- ・岡山県自主防災組織
支援講師団講師

など、防災のスペシャリストとして活動されています



体験会 開催！

お問い合わせはこちらまで

080-5752-0111

【受付時間】9:00～18:00

メール：

aruku.2018.10.18@gmail.com

主催：川辺復興プロジェクトあるく

令和3年度岡山県備中県民局提案型協働事業

企画書

『防災啓発 YouTube 動画』

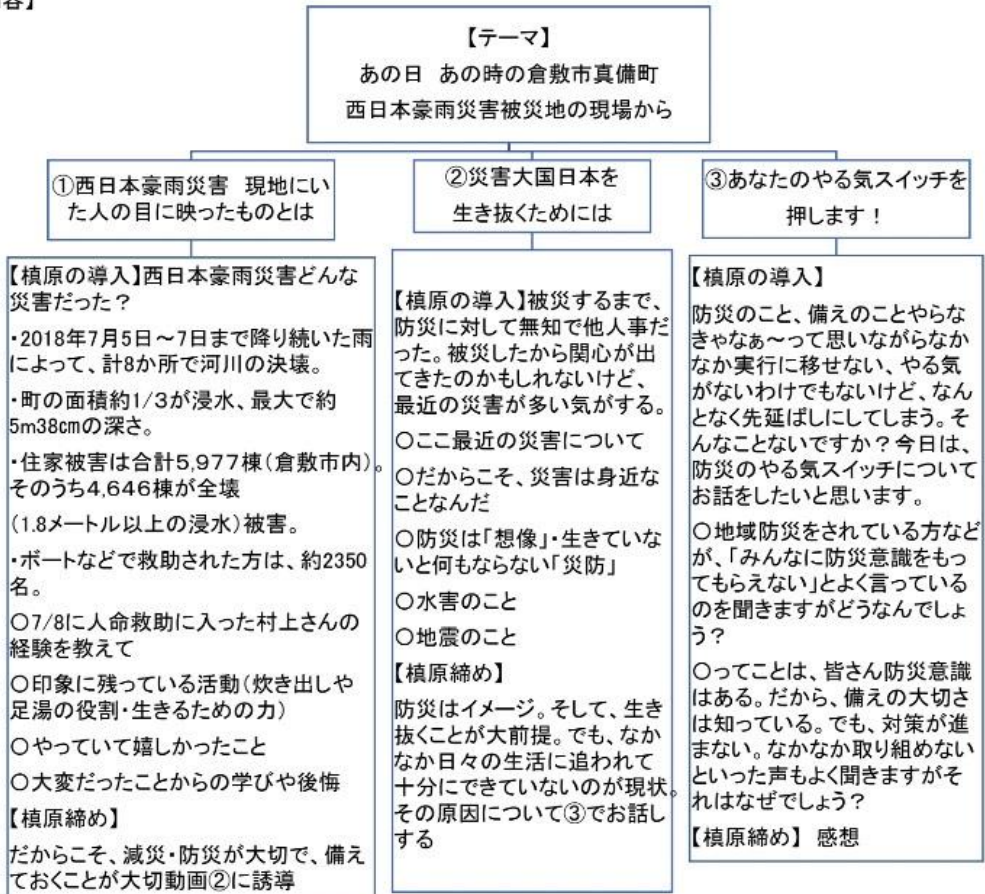
【目的】

- ・防災に関する短編動画を作成し、防災意識の芽生えから小さな行動に移すためのヒントになる情報を発信する。
- ・防災士であり、災害現場での活動経験も様々な知識もある村上さんと被災経験からの防災目線で榎原が対談するかたちで行うことで、より分かりやすい、防災を自分事と捉えられる内容をお伝えする。

【方法】

- ・3月9日(水)ZOOMを録画し編集する。5分～10分の動画×3本。
- ・必要ならば、パワーポイントにて資料の共有もする。
- ・あるくのYouTubeチャンネルで公開する。
- ・令和3年度岡山県備中県民局提案型協働事業として行う。
- ・広報は、FACEBOOK・Twitter・あるく通信などでお知らせし、誰でも興味がある人が見られるようにする。講演会の参考資料でQRコードを掲載し、お知らせする。

【内容】



防災おやこ手帳 配布の準備作業

新年度になり、メディアにも取り上げられるなど、県内外からの問い合わせや申し込みがあった。また、本来の届け先として考えていた、おやこ健康手帳（母子手帳）を発行する妊婦さんにも倉敷市保健推進室から説明をして渡してもらい、災害から子どもを守ることを考えるきっかけとなっている。

9月6日に全国放送で紹介されたことで問い合わせが殺到した。問い合わせをされたほとんどが、当該地域で、防災士として、福祉団体として、地域の代表として、防災会のリーダーとして、防災の活動や子育て支援や何らかの取り組みをされている。近年の気候変動による水害の頻発や直前の土砂災害が起こるなど、危機感が要因のようである。

紹介された内容がわかりやすかったことも理由であるが、被災経験をもとにして制作されていること、掲載がシンプルで取り組みやすい内容であることが申し込みにつながったと思われる。

連絡先も番組内では放送されていなかったにもかかわらず、放送直後から電話やメールが入り対応に追われた。県民局の方にも申し込みがあり対応いただいた。

9月25日には山陽新聞にも掲載され、県内からの申し込みがあり対応した。

【9月中の実績】

配布対応人数 延べ100人
配布対応日数 約20日

配布問い合わせ件数 約100件
配布冊数 約2000冊

【2020年10月発行後からR4.年2月末までの累計】

配付冊数 約125,000冊

「防災おやこ手帳を地区の皆さんにニュースレターにしてご紹介してお配りします」とお礼状が届いた。

他にも地域で活動している冊子やチラシ、防災おやこ手帳に追記しては？と、ご意見を同封されるなど、防災活動に活用されていることを嬉しく感じている。



防災おやこ手帳第2弾（非常持ち出し品や備蓄について）製作

昨年作成した防災おやこ手帳は、避難行動に移るまでの意識付けや、避難先をまず決めていざという時最低限必要な情報をいれていた。わかりやすいと好評であるが、被災経験をもとに被災したからこそ見えてきた非常持ち出し品や備蓄品に絞った内容の冊子を作成し、県内外の方の備えのきっかけづくりにしたい。

(意見だし会議) 9/17 8人
 9/24 11人
 9/29 9人

その他 エピソード原稿依頼
 インタビュー取材
 写真撮影
 原案入稿
 校正
 など調整して進めた

(主な内容)

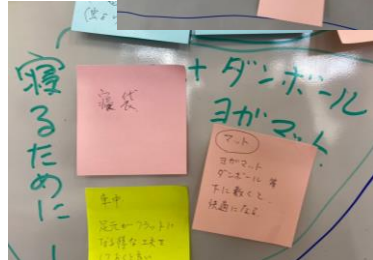
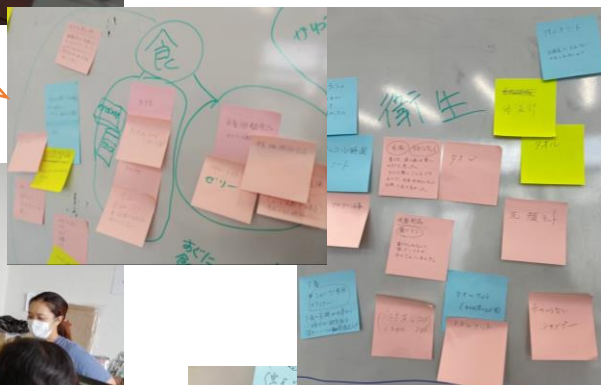
水害は備えができる唯一の災害
 対象はおおむね子育て中の親世代に伝える

経験者のエピソード
 避難するときに考慮すべきこと
 大切なものはどのようにしておく？
 被災後の生活再建への情報
 食事について

など、経験者として伝えたいことを盛り込む



避難準備品のリストに入れるものを書きだしました



防災おやこ手帳第2弾完成

R4年2月9日完成到着から、真備町内幼稚園、保育園、小学校、中学校、支援学校、関係諸団体に配布準備、配送した。

同時にプレス発表・Facebook、TwitterなどSNSにも投稿し、取材も始まる。Googleフォームで申し込みを受け付けるときに第1弾、第2弾の写真を載せ両方手に取れるようにしたことで両方、複数冊申し込みをされている。

今回は、岡山県内の申し込みが多くある。

申込者の特徴として、30～40歳代の申し込みが多いこと。

防災リーダーなど防災のことを我ごととして取り組みたいと活動している人が多いなど、若い世代が防災に取り組み活動が広がっていくのではないかと期待が持てる反応となっている。

SNSが得意でない方が多いのか高齢の方は、電話での申し込みが多い。

倉敷市内の方は、事務所まで来られる方もあるが、県民局など公共の場に取りに行けるという方もいる。このようなことから、広く公の場所にも置くなども必要と思われる。

今回は完成と同時に発表したこととメディアに取り上げられるタイミングが合致したこと。これまで、防災の活動をFacebookなどに投稿していたことによる認知度が上がっていたことで申し込みも、問い合わせも多く来ている。

県外の公共機関からの問い合わせも多くあり防災の関心度の高さを感じている。2月27日現在配布数 (第1弾18,168冊 表紙新版140冊
第2弾5,125冊)



12/5 川辺地区ふゆまつり防災展示、防災アンケート

川辺地区で開催された「ふゆまつり」に協力団体として参加した。

そこで、簡単に答えられる内容の防災意識を尋ねる問題を3つ出しシールを貼って答えてもらった。応えてもらった方には、非常食（倉敷市提供）を差し上げた。当日参加者の12%の方がアンケートに参加してくれた。

水害に特化した内容であり、「マイ避難先を決めてるか？」は、回答者の96%が決めていた。いいえが14%だった。

「川辺地区は5m以上が浸水すると言われていることを知っている」と回答した人が98%とやや安心したが、知らない人もいるので、引き続き伝えていかなければいけないことだと感じている。

「災害が起こった時気になること」は、避難のことが最も多く74%、持ち出し品のことが、54%、要配慮者がいるが35%、ペットが居ることが29%となっている。

今後も事あるイベントでアンケート調査をしていきたいと思っている。

【防災アンケート結果】

Q マイ避難先を決めていますか？

はい 51 いいえ 12

Q 高梁川が決壊したら川辺地区は家の2階の屋根まで浸水することを知っていますか？

はい 54 いいえ 10

Q 災害が起こった時に気になることにシールを貼ってね。

・ 避難のこと（手段？避難先？） 29

・ 持ち出し品 28

・ 要配慮者がいる（乳幼児・高齢者・持病を持つ人がいる。障害を持つ人がいる。） 18

・ ペットが居る 15



【キッズ防災】小学生に向けて防災のお話

10/15【川辺小学校3年生 あるくの活動について】

地域の団体についての勉強ということで、今日はあるくのお話をした。

内容は、地域の人が安心して暮らすことができるように、災害で命を落としたり怖い思いをする人が少しでも減るように、思いを込めて活動しているということをお話した。

一生懸命話を聞き、積極的に質問もしてくれた。「榎原さん！」と手を振ってくれた子もいて、地域の活動を身近に感じてくれていてと感じられた。

転勤で西日本豪雨を経験していない先生が増えていき、被災した子どもたちの防災教育をどのようにすればいいのかと・・悩ましくなってくる中で、地域の私たちが防災について話す場面はとても大切だということも感じた。

体育館も西日本豪雨で浸水し、その後リフォームをしたことがわかる箇所があり、これも、語り継ぐべきことと感じられた。

最後にライスクッキーを家族と一緒に食べて、「おいしい」防災食の準備や避難のことをお家の人と考えるきっかけになればと願い渡すことができた。3年生にはわかりやすく伝える工夫としてイラストを入れた資料で話をすすめた。



11/17【川辺小学校5年生に】

総合学習で防災に取り組み。

自分達が学んだことを人や地域のために役立てることを目標とされているとのことで、あるくが被災後からさまざまな課題に対して「自分にできることを誰かのために、自分のためにしてきたこと」をお話した。

先生方は、被災について子どもたちが授業の中で語ること、どのタイミングでするかをととても迷われたが、心のケアも視点に入れて、今年初めて一歩進んだ授業をするそうです。

質疑応答では たくさんの子が手をあげて積極的だった。「なぜかな？どうしてかな？」と、素直に質問をしてくれる子どもたちに精一杯お応えした。

子どもたちの気づきにつながり、学習が実りあるものになるように願っています



学校で聞いた話を家に帰って保護者と話をする。
防災を自分事として考えるきっかけになる。
大人になって伝える側になり地域の担い手になる。

キッズ防災

こんな時、きみならどうする？
YES or NO で答えてみよう。

子ども 防災

定員
20組
(先着順)

ゲームで楽しく防災！ クロスロードゲーム 参加者大募集！

友達同士

災害をイメージして、「もしも」に備える！



対象

- ◇ 小学生、小学生おやこ
- ◇ 小学生低学年のお子さんは保護者同伴でお願いします

参加費

- ◇ 一人 100円

とき

12月11日(土) 午前10時～11時30分

ばしょ

川辺分館

講師

橋本 笙子 (ピースウィンズ・ジャパン国内事業部次長)

令和3年度岡山県備中県民局提案型協働事業

主催： 川辺復興プロジェクトあるく

問い合わせ先 080-5752-0111 e-mail: aruku2018.10.18@gmail.com

(クロスロードゲーム申込書) 参加希望の方は、下記の申し込みを、学校担任の先生に出してください。

参加者名		学年		保護者参加	あり・なし
連絡先 (電話番号)					

《楽しく防災 でも、しっかり学ぶ》

ピースヴィンス・ジャパンの [橋本 笙子](#) さんを講師でお迎えして開催。元気な子どもたちと保護者が参加してくれ、色々な災害についてわかりやすく説明があり、その後yes OR NOで答えていくクロスロードゲームをした。

「災害大国日本」という、ちょっと、ドキッとのお話も、具体的な対策も聞かせていただき、とっても貴重な2時間となった。10組を上回る参加人数であった。

クロスロードでは、選択した答えに対して、「なぜ〇〇なの？」との問いに、子どもたちなりの言葉で話ができている、感心すると同時に子どもの頃から防災に触れる機会は大切であると感じた。



《参加者の声や様子》

○災害時の究極の選択「自分の命」か「大切な誰かの命」かを瞬時の判断をしなければならない場合、まずは自分の命を守る。その次にそばにいる誰かや大切な人を助けるようにと、家族で話し合いました。そして、その子ども達を探さないことも共有したそうです。何故なら「子どもたちは必ず生き延びていると確信があるから」ともいわれていた。

○クロスロードゲームの時の登下校時に災害がおきたらどうするか？という質問は子供もかなり迷ったようだった。

今まで学校にいる時や家にいる時のことしか想定してなかったのが、盲点で、学校へ集合するよう家族で意見を合わせました。子供の行動範囲が広がるにつれてその都度確認していかないといけないなと夫婦間でも話をしました。

○避難時に持って行ったお菓子や食べ物は分けてあげる？の質問では「人に分けてあげたら自分の食べるものが無くなって死んじゃうから」と応えていた。

(課題)

このように、子ども達も辛い思いをしたにもかかわらず、参加し、自分事として考える機会になったと思われる。

今後も親子で取り組むイベントを開催して、子どもの素直な意見を聞き、命の大切さや地域の人との交流を経験することが重要であると感じている。

令和3年度啓発活動報告

1. 講演活動

	日にち	場所	イベント・講演 会名	講演テーマ	人数	主催
1	2021.5.21	ZOOM	減災防災学習	西日本豪雨災害の被災者に水害について聞いてみよう	70名	和歌山県橋本市立あやの丘小学校
2	2021.6.12	ZOOM	中央大学学生ボランティア防災研修会		30名	中央大学ボランティアセンター
3	2021.6.21	ZOOM	オンライン市役所防災対策課/公開ミーティング	「被災地の復興」から「未災地の事前復興」を考える	58名	オンライン市役所防災対策課
4	2021.7.2	倉敷市立東中学校	倉敷市P連東ブロック母親委員会研修会	西日本豪雨被災者から学ぶ～母親目線の防災～	45名	市P連東ブロック
5	2021.7.3	岡山市立興除公民館	防災語ろう会		15名	興除公民館
6	2021.7.10	オンライン(事前撮影)	「地域防災人材育成講座」みんなの力を活かす、地域防災力!第2回	まさか・・・私が『被災者』となったあの日のこと～西日本豪雨災害・岡山県倉敷市真備町の災害発生時の様子と被災状況～	不明	京都文教大学
7	2021.7.17	京都文教大学	「地域防災人材育成講座」みんなの力を活かす、地域防災力!第3回	被災者が伝える大切な人を守るための復興と防災～西日本豪雨災害を経験した子育て世代の思いと地域防災の取組～	50名+オンライン配信	京都文教大学
8	2021.7.14	岡田分館	真備町復興スタディーツアー「トヨタカローラ」様	あの日のこと、災害に強い地域づくりについて	10名	復興スタディーツアー
9	2021.8.1	マービエふれあいセンター	真備町復興スタディーツアー「おはなしのWA♪」様	あの日のこと、災害に強い地域づくりについて	10名	復興スタディーツアー

10	2021.7.30	ZOOM	神石高原・防災勉強会	被災者が伝える大切な人を守るための復興と防災～西日本豪雨災害を経験した子育て世代の思いと地域防災の取組～	30名	ピースウィンズジャパン
11	2021.8.18	倉敷医療生協会館	医療生協・ミニ勉強会		30名	倉敷医療生活協同組合
12	2021.8.20	オンライン事前収録	岡山県男女共同参画ゼミナール第6回	被災者が伝える大切な人を守るための復興と防災～西日本豪雨災害を経験した子育て世代の思いと地域防災の取組～	不明	岡山県男女共同参画推進センター
13	2021.8.21	岡山市立大元公民館	レッツ防災♪おおもと探検隊！②	聞かせて！真備の水害	15名	大元公民館
14	2021.8.28	ZOOMウェビナー	全国まちづくり会議2021-2021「復興」ってなんだ？真備編	第3部これからの真備をかたる	約100名	認定特定非営利活動法人 日本都市計画家協会
15	2021.9.11	ZOOM	日野市民でつくる防災・減災オンラインフォーラム		不明	日野市社会福祉協議会
16	2021.10.10	ZOOM	防災ファッションアイデアコンペティション	西日本豪雨の教訓	不明	大阪市
17	2021.10.15	川辺小学校	地域の団体の活動を知ろう	川辺復興プロジェクトあるくの活動について	60名	川辺小学校3年
18	2021.10.21	岡山プラザホテル	マスコミ倫理懇談会2021全国大会分科会	相次ぐ大災害―災害報道、防災報道とは	100名	全国マスコミ倫理協議会
19	2021.10.25	岡山きらめきプラザ	岡山県聴覚障害者福祉協会女性部研修会	西日本豪雨の教訓と防災	15名	岡山県聴覚障害者福祉協会女性部
20	2021.11.17	川辺小学校	総合学習・防災	あるくの活動と防災	55名	川辺小学校5年生
21	2021.11.18	マービールあいセンター	防災減災学習	西日本豪雨の教訓	180名	玉島東中学校2年生
22	2021.11.25	倉敷市立西中	減災防災学習	西日本豪雨災害の教訓	300名	倉敷市立西中学校2年生 2回に分けて

		学校				
2 3	2021.11.27	玉野産業振興ビル	防災展 in 玉野	被災者が伝える大切な人の命を守るための防災～西日本豪雨災害を経験した子育て世代の想いと地域防災の取組～	60名	一般社団法人epo おかやま笑顔プロジェクト
2 4	2021.11.30	山陽新聞本社さん太ホール	中国地方流域治水シンポジウム	パネルディスカッション	100名 +YouTube	国土交通省中国地方整備局
2 5	2021.12.2	倉敷国際ホテル	倉敷ロータリークラブ例会	西日本豪雨の教訓	50名	倉敷ロータリークラブ
2 6	2021.12.5	倉敷市民会館会議室	倉敷市PTA連合会西ブロック研修会	被災者が伝える大切な人の命を守るための防災	50名	倉敷市PTA連合会西ブロック
2 7	2021.12.19	真備公民館	まびがく～西日本豪雨災害とこれからの防災～	西日本豪雨災害から学ぶ～榎原家の後悔とその後の防災の取組～	30名	岡山市青年協議会
2 8	2022.1.21	マーベールあいセンター	防災減災学習	西日本豪雨から学ぶ	170名	倉敷市立連島中学校2年生
2 9	2022.2.22	チームス	災害に強い地域づくり	気軽に相談できる住民関係づくり	40名	吉備国際大学
3 0	2022.2.23	ZOOM	事例から学ぶ災害被災者とのコミュニケーション	西日本豪雨災害の事例から	30名	災害支援ネットワークおかやま
3 1	2022.2.27	チームス	東日本大震災・西日本豪雨災害オンライン講演会	西日本豪雨災害の被災者が伝える～あの時の後悔と学びから生まれた取組～	40名	広島経済大学興動館 東北支援プロジェクト
3 2	2022.3.4	ZOOM	減災防災学習	西日本豪雨災害と防災	60名	奈良市立朱雀小学校6年生
3 3	2022.3.15	マーベールあいセンター	減災防災学習	西日本豪雨から学ぶ～今日からできる！命と心を守る防災対策～	110名	玉野市立宇野中学校

※ 上記以外に、コロナ感染拡大によって5回の講演会が来年度に延期、もしくは中止となった。

2. 書籍・広報誌・サイト掲載

- ・倉敷市社会福祉協議会 「豪雨ニモマケズ」
- ・FM 岡山フリーペーパーさりお掲載
- ・まちづくりチャレンジ550 地域再生大賞の10年
- ・川辺災害記録誌
- ・日本防火・防災協会 地域防災に関する総合情報誌「地域防災」2021-10月号
- ・岡山県男女共同参画の情報誌ういず 11月号
- ・広報玉野1月号
- ・倉敷市男女共同参画情報誌 WITH テリア 39号
- ・国土交通省「カワナビ」<https://www.bosai-nippon.com/s-post/4330>
- ・読売新聞「くらしのなかに防災ニッポン」 流域治水に取組もう！水災害から命を守るために、今みんなのできること「黄色いタスキの取組について」 <https://www.bosai-nippon.com/s-post/4330>
- ・内閣官房国土強靱化『すすめよう災害に強い国づくり～国土強靱化とは～』
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/about.html
- ・電子書籍 まちづくりチャレンジ600 地域再生大賞(3月22日公開予定)
- ・Yahoo!政府広報枠にて「すすめよう防災に強い国づくり」について掲載(3月中旬予定)

3. テレビ・ラジオ・新聞など

- 4.1 (木) FM ぐらしき「おまかせラジオ」 黄色いタスキ大作戦について
 - 4.23 (金) 山陽新聞「備中県民局提案型協働事業採択」
 - 4.25 (日) 山陽新聞「真備・川辺の住民グループが大作戦～被災時の逃げ遅れゼロに～」黄色いタスキについて
 - 5.6 (木) FM ぐらしき おまかせラジオ「防災おやこ手帳について」
 - 5.17 (月) 倉敷ケーブルテレビ「黄色いタスキ大作戦～安否確認訓練～」
 - 5.18 (火) RSK イブニングニュース「黄色いタスキ大作戦～安否確認訓練～」
 - 5.21 (金) 山陽新聞「黄たすき掲げ無事伝達 出水期前に真備町川辺地区 逃げ遅れゼロへ住民訓練」
 - 5.23 (日) 山陽新聞「復興、防災真備で学んで 決壊場所や工事見学テーマ別の解説も」
 - 6.2 (水) OHK ライブニュース「真備復興ツアーと黄色いタスキ大作戦について」
 - 6.6 (日) NHK 総合「明日をまもるナビ」逃げ遅れゼロへ
 - 6.29 (火) NHK RSK RNC「真備復興スタディーツアー」
 - 7.1 (木) KSB news park「LINE 防災・黄色いタスキ大作戦」
 - 7.4 (日) 朝日新聞社説「黄色いタスキ」
 - 7.30(金)朝日新聞「無事です」黄色いタスキを玄関に 西日本豪雨の教訓
 - 8.5 (木) FM ぐらしき「真備復興スタディーツアー」
 - 9.6 (月) NHK あさイチ「体験者に聞く 水害から家族・暮らしを守るには？」
 - 9.8(水)NHK もぎたて・防災フレンズ「真備町のお母さん方が作った冊子！避難スイッチは子どもたちだった！」
 - 9.25 (土) 山陽新聞「防災おやこ手帳好評 県外から注文 豪雨教訓分かりやすく」
 - 10.21(木)山陽新聞「マスコミ倫理懇 災害報道考える 岡山で分科会、オンライン開催」
 - 11.9 (火) NHK 国際放送「BOSAI」出演
 - 12.15 (水) KSB newspark コツコツ防災「あるくの取組と防災おやこ手帳について」
- 2022年

- 2.15 (火) 倉敷ケーブルテレビ「防災おやこ手帳第2弾発行」
- 2.16 (水) KSB Newspark コツコツ防災「防災おやこ手帳第2弾発行」
- 2.17(木)RSK イブニングニュース「防災おやこ手帳第2弾発行」
- 2.21 (月) NHK もぎたて「“防災おやこ手帳” 西日本豪雨被災者が備えなどの小冊子作成」
- 3月より複数回 国際放送のNHK ワールドプレミアム(海外に暮らす日本人向けの日本語チャンネル)ミニ番組
○幸せの黄色いタスキ大作戦 <https://www.nhk.or.jp/ashitanavi/video/2059.html>
- 2.28 (月) FM岡山 フレッシュモーニングオカヤマ「防災ダイアリー」「防災おやこ手帳やこれからの展望」
- 3.1(火)FMくらしき 真備町の「今」と「これから」「防災おやこ手帳第2弾について」
- 3.7 (月) FM岡山 防災特別番組 家族とわたしを守る！我が家の防災「防災を自分事にするためには」
取材・掲載予定 山陽新聞・毎日新聞「第2弾防災おやこ手帳について」

4. 受賞

2021.11.10(水)岡山県備中県民局 地域づくり推進賞(県民局長賞)